

正しい妖狐
のしつけ方+



永らく続く
人ならざる者との関係も
時を経て変化する

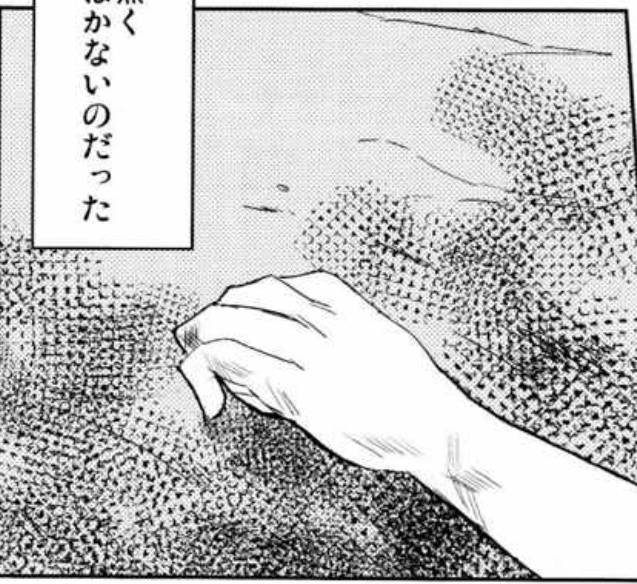
あるときを境に
大きく崩れた

人を突き動かすのは
荒廃がもたらしたる修羅

妖怪狩りが
始まったのだ

妖怪が持つ特殊なチカラを
打ち破る術を身につけた人に

成す術も無く
身を隠すほかないのだった



化け猫である妖怪の橙は
人里で消息を絶った藍を
探し続けていた

伝聞をたどる長い年月で
次第に橙は人と深く
関わるようになるのだった

さぞ
疲れただろう



最近は何かと
物騒だな

街には妖怪が
はびこると聞く

妖怪狩りが
頻発する人間界で
橙は心身共に焦燥していた

こんなもてなししか
出来んがゆっくり
休んでいくといい

若い娘が
こんな夜中に
訪ねてきたと思ったら

案の定アヤカシか

う…藍…
ねえさま…

疲労で昏倒した橙は
長旅で汚れた体を
剥き出しにされていた

幼いながら女の丸みを帯びた
肢体が微かに震える



久しぶりの獲物に
男は興奮を隠せない

役人に引き渡す前に
役得ぐらいねえとな...

ケモノ臭に渗む
微かな女の香りに
男は欲情していく



乳首の形を
確かめるように
舌を這わせ

小さく膨らむ胸に
痕がつくように
強く吸う

混濁した意識の中
興奮に誘われ
身体が火照っていく

性器を弄られる
淡い快感に
次第に緊張を解いていく橙

未通の陰唇を
余すことなく視姦し
満遍なく塗らされる

う…

んっ…

んっ

んっ



いきり立った
男は性器を擦り合わせ



一気に腰を
突き入れる

膜を破り腹に埋まる男根は
橙の意識を串刺しにする

あーっ
いっっ
ッ!

ッ!

ッ!

数度
膣を馴染ませた後



次第にペースを上げ



昂ぶりを
ぶつけられていく



一番奥で精液を
ぶちまけられ

下腹部から頭に
不快な性感が伝わる
ぐもった呻き声が喉を通った

大量の精液が
橙を濡らしたが

男の欲望は
尽きることがないのだった



目が覚めたようだな



解こうとしても無駄だ
首に呪縛を施してある

連れてこられる前に
可愛がられたようだな

なぜこんなことを
と言う表情だな



この呪を作ったのは
お前の探す九尾の子よ

性衝動がお前の身体を
駆け巡っているだろう

やだ…っ

見かけによらず
もう立派な雌だな『橙』

やめろっ…



お前の腹で
アオシロ
妖人を成すためにだ



呪はお前の身体を
情欲に従わせる

さわるなっ



ケモノの匂いが濃くなってきたぞ

物言わぬ橙の肢体を執拗に愛撫し
じらしていく

そろそろ
チンポが恋しいか？

愛液は止まることなく
橙の秘部を濡らす

あたりに広がる性臭が
欲情を知らしめている

橙の尻は小柄な身にそぐわず
大きく柔らかな桃尻だった

ほんのり赤みを帯び
やわらかくほぐれたそれは
雄の本能を刺激する









初めての
絶頂

本能が肉棒を
深くくわえ込み、しこく
射精を誘う

おれ
おれ

おれ
おれ

おれ
おれ

敏感な所を
こすりつけられる度

アクメの
甘さを
快楽を知る

否応なくメスの悦びを
教えられていく...

とく
とく

とく
とく

とく
とく

あ
あ

あ
あ

時間を問わず
調教は続く

汗や涎
精液のにおいに
徐々に慣らされていく

敏感になった嗅覚が
思考を多い尽くす

執拗な調教に
性感を開発されていく

快感に慣れた身体は
徐々に男たちを
受け入れようとしていた





—久しぶりに
楽しい調教だった

ここに来た時は
お前もなかなか
犯しがいがあつたな

お前とよく似て
本能に従順な
いいメスだ橙は

最後はお前が
導いてやれ…藍

雌の悦びのすべてを
教えてやるといい

あと少しで子種を
迎え入れる子宮が
整うところだ



抵抗しないで
橙

はあ

はあ

はあ

ら…
藍さき





溝を埋めるよう
次第にもさぼり合う二人

らんさま...あ
藍の舌が
橙に溶けていく



は...あ
んっ

うき...うき

—もう手遅れなの…

出た
出た
んあ

受け入れて欲しい…
なにもかも

あなたに触れて
こんなにも熱くなってる♡

私も一緒に…
ずっと…一緒だから…♡

らん…さま

ん…♡

んんう♡

うん♡

キッ

キッ



男の肉棒は
熱くぬかるんだ秘所に
すんなりのめり込んだ

息が止まるほどの
強い交尾

今や橙の喉を突くのは
かすかな嬌声だった



射精

数度位置を整え
子宮のしこりに向かって

橙の媚肉は
挿入に合わせて
程よく刺激した

肉棒を奥深く
受け入れ

受精

原始的な快楽に
身を任せる…

種付け

子種が下腹部を
満たしていく感覚

快楽を…
深く刷り込まれる…

子種が子宮の裏側を
舐めるような濃厚な射精







はあ!...っ♡

はあ!...っ♡

これで...完全に
堕ちました!...っ



ご主人様の子種で
私も受精させてください♡



もう!
もう我慢できません!

子種をっ!

もっ



はあ...♡

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

ゴリゴリ

びしょびしょ

んっ♡♡
子宮う
ゴリゴリいのお♡

んひいっ♡



溺れるうう♡
ふうう…ん♡
♡

おん
おん

熱いのが…
中にあふれて…っ♡

絶対…
受精しますう♡

あむ♡

んう♡

堕ちた橙は
従順に愛欲を受ける

乳房は張り
だらしなく母乳を漏らす

子種の洗礼を受け
その腹は大きく膨れていた…

橙は
快楽に抗う気など
なかった

性感を刺激される度
嬌声を上げ
よだれを垂らす

今はメスとして褒められるのが
何より嬉しいのだ

肉欲の宴は続く…



奥付

正しい妖狐のしつけ方+


発行日 2012.8.11

サークル 紙上岬

代表 佐藤想次

連絡先 satou303@gmail.com

18歳未満の閲覧、購入は禁止しております



18歳未満の閲覧、購入はできません